

平成 30 年度箕面国有林におけるニホンジカの生息状況外モニタリング調査報告書 —概要版—

平成 31 年 3 月
(株)野生動物保護管理事務所

GPS テレメトリー調査

平成 30 年度は新たに 1 頭に GPS 首輪を装着した。平成 29 年度および平成 30 年度に GPS 首輪を装着した個体について分析を行った。

結果

- ・ 行動圏は MN-17-1 は 1.82km²、MN-18-1 は 0.40km² で季節移動はみられなかった。
- ・ 植生タイプ別の利用割合は、個体差があるものの落葉広葉樹林を利用していた。
- ・ 地形的に隠れやすい場所(急峻な谷)を集中的に利用する場所が確認された。
- ・ シカの移動経路は概ね同じ場所を利用していた。
- ・ 日中は林内を利用し、夜間は道路周辺に出没していた。

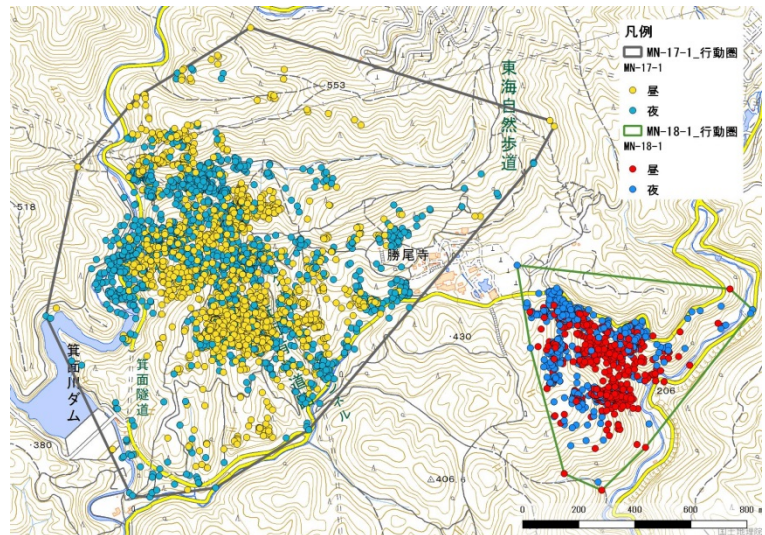


図 1 昼夜別利用点の分布

ニホンジカの生息状況の把握

平成 26 年度、27 年度に設置したセンサーカメラの位置から 10 箇所を抽出して平成 29 年度にセンサーカメラを設置し、平成 30 年度に解析を行った。

結果

- ・ 平成 29 年度に設置した地点のほとんどでシカの撮影頻度が低下した。
- ・ 全体的にシカが減少していると考えられる。



図 2 平成 29 年度のセンサーカメラ設置位置

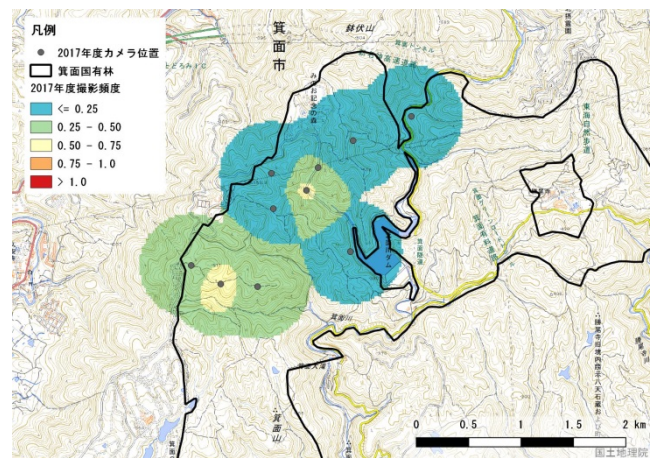


図 3 IDW 法による撮影頻度の空間補間結果
(平成 29 (2017) 年度)

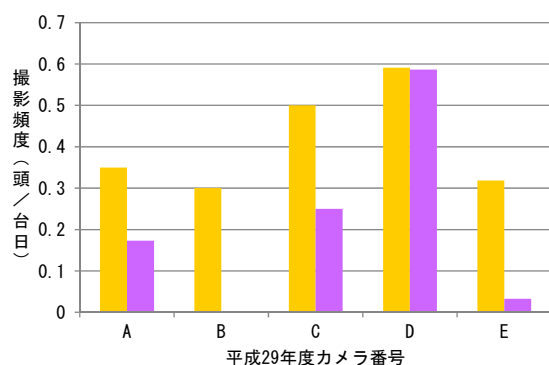


図4 地点別撮影頻度の年変化
(平成26年度および平成29年度)

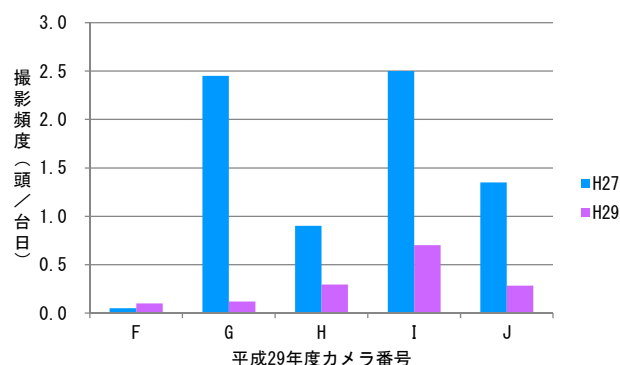


図5 地点別撮影頻度の年変化
(平成27年度および平成29年度)

ニホンジカの利用環境調査

平成27年度、28年度にGPS首輪を装着した個体の測位データから、利用頻度の高い場所とその対照区で植生や立地条件などの調査を行った。

結果

- ・ 夏季は落葉広葉樹林の利用が多く、冬季は常緑広葉樹林の利用が多かった。
- ・ シカは見通しの良い場所は避け、見通しの悪い地点を多く利用していた。
- ・ 夏季は尾根を多く利用し、冬季は谷を多く利用していた。冬季は落葉しているため地形的に隠れる谷を利用していると考えられる。
- ・ 夏季は低木や草本などの採食できる植物が多い場所を利用し、冬季は落葉が多い場所を利用していた。落葉も多く採食していることから土壌の流出が危惧される。

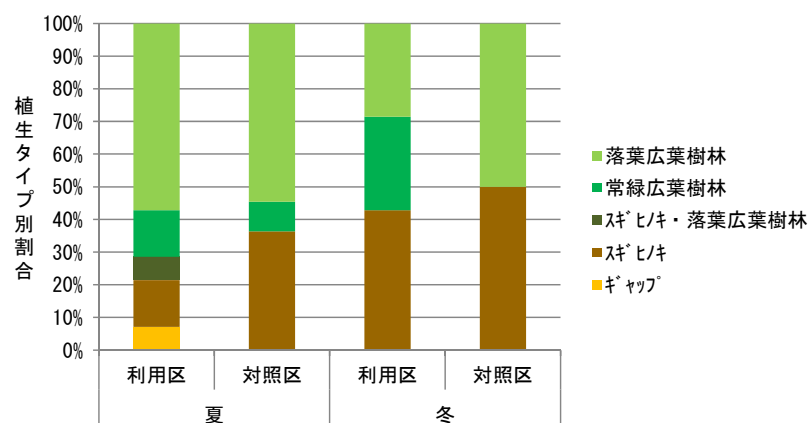


図6 調査地の植生タイプ別割合



写真1 落葉を採食する
成獣オス